

# 令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】

新宿区立新宿西戸山中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月1日】

|      |    |  |
|------|----|--|
| 授業作り | 重点 | ・ICT機器の利活用を通して、個々の生徒の学習状況に合わせた個別最適な学び及び協働的な学びを推進する。              |
| 環境作り |    | ・授業および教室環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が学び合い「わかる・できる」ようになることを目指す授業作りを展開する。 |

## ■ 各教科の取組について

| 教科 | 学習状況の分析<br>(各種調査から)   | 学校が取り組む目標<br>(日常の授業の様子などから)   | 目標達成のための取組  |
|----|---|---|---|
| 国語 | ・新宿区学力定着度調査の結果から、思考・判断・表現の観点の平均正答率と比較すると若干苦手としていることがわかる。特に読むことの面で得点できていないことが多い。                                       | ・語彙を増やすために、教科書に記載されている語句の意味調べ、例文調べを行うとともに類義語、対義語など、関連する語句の理解、活用も促す授業を構築する。<br>・相手に伝わりやすい文章構成や言葉選びに留意できるよう、意見発表の場を多く設ける。 | ① 通常の授業から言葉を大切に扱えるよう、意味調べを行う際も、類義語、対義語を含めて理解し、短文作成を通して活用方法を学ぶ。<br>② 各単元で思考・表現ができる学習活動を積極的に取り入れ、各自が主体的に自分の考えをもち、級友と共有・深化できるよう適宜助言を行う。  |
| 数学 | ・新宿区学力定着度調査の結果から、第3学年について、「1数と式」「2図形」「3関数」分野では区の平均正答率を下回っている。第2学年について、「1数と式」「2図形」「3関数」「4データの活用」すべての領域で区の平均正答率を下回っている。 | ・学習内容の定着及び計算の手順や法則についての理解を図るため、基礎的・基本的な学習を反復する時間を、毎授業内に設定する。<br>・応用問題に対する苦手意識の解消及び生徒が粘り強く問題に取り組むために、体系的な繋がりを意識した指導を行う。  | ① 体系的な繋がりを踏まえた授業展開を行う。<br>② デジタルドリル等の活用を行う。<br>③ 単元別テスト等理解度を確認するためのテストを定期的実施する。<br>④ 習熟度別少人数クラスを活用した生徒の実態に応じた分かりやすい指導を行う。   |
| 理科 | ・新宿区学力定着度調査では全体的に区の平均を下回っている。特に化学分野や物理分野などの目に見えないものをモデル化して考える分野や、思考・判断・表現の観点は評価が低いと伺える。                               | ・仮説(予想)→計画→実験→結果→考察→結論の流れを一貫して行い、他者と協働して自ら課題を解決する授業展開を行う。<br>・3年間の系統性を意識し振り返られる授業を展開することにより、長期的に既習事項を知識として定着できるようにする。   | ① 実験・観察を行う前に既習事項や生活経験をもとに根拠に基づいた仮説を個人で立てさせる。実験後はレポート作成を通して自ら考察する習慣を付け、さらに考察を他者と共有し、より考えを深められる話し合い活動を取り入れる。<br>② 単元の導入などで、小学校や前学年の既習事項を振り返る。<br>③ デジタルドリルやワーク等を活用して既習事項の反復練習をする時間を授業内に確保し、定期的な小テストを実施する。 |

|           |  |   |  |
|-----------|--|---|--|
| <p>社会</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査では、全体的に区の平均を下回っており、特に、思考・判断・表現の観点および応用の問題が区平均との差がある。分野ごとでは、地理分野が平均を下回っている。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容の定着を図り、社会的事象の背景やつながりを理解させる。</li> <li>・地図等の資料の活用や、協働的な学びの場を増やし、多面的多角的な思考を深めさせる。</li> <li>・考えをまとめ説明することを苦手とする生徒が多い。学習したこととのつながりを考えて自分の言葉で記述する機会を増やす。</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小テストの実施、デジタルドリルの AI 機能活用、基礎的・基本的な内容の反復学習を行う。</li> <li>② 地図や資料の読み取り、調べ学習、意見共有の機会を増やす。</li> <li>③ 学習のまとめや調べ学習等、書いて表現する学習活動を増やす。</li> </ol>                            |
| <p>英語</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査では、領域別で「聞くこと」の正答率が最も高く、聞く力を生かした練習が効果的と考えられる。</li> <li>・同調査では、全体的に区平均を下回っており、「書くこと」の領域で最も大きな差が見られた。書く練習を積む必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークによる単語や会話練習を毎時間取り入れることで、生徒の発話量を増やし、コミュニケーションの素地を養う。</li> <li>・聞いたり話したり読んだりした内容を英語で書くなど、4技能を統合した活動を取り入れる。また、デジタル教科書やタブレット端末を活用しながら、個別最適な学びを進めていく。</li> </ul>         | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 習熟度を考慮した少人数授業と生徒同士のコミュニケーションの促進を行う。</li> <li>② パフォーマンステストによる自己表現力を伸ばす活動を行う。</li> <li>③ 聞いたり話したり読んだりした内容を英語で書く統合的な活動を行う。</li> <li>④ デジタルドリル・デジタル教科書を活用する。</li> </ol> |